

令和8年8月21日

馬淵建設(株)

〇〇作業所長 様

〇〇工事課長 様

〇〇営業課長 様

ガーラ・レジデンス洋光台新築工事
近隣住民まとめ役 〇〇 〇〇

〇〇作業所長、返信ありがとうございます。

漸く、何をすべきか気付かれたこと、安堵しています。

小学校への説明、宜しくをお願いします。

また、洋光台第一小学校に説明に行かれた際は、訪問日時を教えてください。

ホームページに掲載します。

以下に、馬淵建設に対し、8/18の説明会に関する意見をします。

●アスベストの物性に対する認識不足

8/18 の説明会の際に、〇〇工事課長が「アスベスト解体中は、誘導員が児童をガードレールの反対側に誘導します。」と発言されました。

仮に、微細な繊維のアスベストが漏れた場合、それは5メートル以上の高さから、児童の頭上にアスベストは降り注ぐ状態になります。多少の風が吹いていれば、浮遊する水平距離は道路幅の6メートルでは済みません。

擁壁下道路は、反対側は近隣住民の住宅が林立し、まさに窪地の閉塞状態です。

工事課長が主張した、反対側に学童を誘導したとしても、それは意味のないことを確認ください。

アスベスト解体中に、保護者及び学童が、当該計画敷地に隣接する通学路を通らない選択肢があります。

万全を期しても、事故は発生します。

その選択肢を各児童のご家庭で判断できるように、小学校に情報提供して下さい。

本来であれば、夏休み前に、小学校に詳細な情報伝達をし、夏休み前に、小学校が各ご家庭に情報伝達すべき事案でした(2名の主婦が説明会の当日指摘した通り)。

私が、保護者でしたら、考えるまでもなく、アスベスト除去作業中は、ここを通学路として選択しません。

●説明をすることを遅らせたものが、質問の回答とは別に、工事を強行すると の住民無視の主張は通らないこと

〇〇営業課長は、最後に「質問の回答は回答で、工事は進めます。」と意味不明な言葉を繰り返しました。近隣住民が、説明会の後に集まり、一番問題としたのは、営業課長のその言動でした。住民軽視のその態度は、住民の信頼を更に喪失しました。

既に、小学校の学童の複数の保護者は、近隣住民が提出した30項目の質問・要請事項を、ホームページを閲覧し確認しています。

私が道を歩いていると、「ホームページ見ました。」、「馬淵建設さんへの質問書、当たり前ですね。」と声を掛けて下さる保護者・住民の方々がいます。

近隣住民は、先ずは、アスベスト除去の説明会をして欲しいと10か月前から、馬淵建設の営業課長、工事課長他にリクエストしていました。専門工事業者が、なかなか見つけれなかった様子ですが、それは、近隣住民の責任ではありません。なお、作業所長は、6月にこの現場の所長を任命されたとの説明でしたので、責任はありません。

馬淵建設が、FJ ネクストに気遣うのであれば、専門工事業者を一早く決定し、住民に対し、早い段階で安心させるような説明をする事案でした。自分たちが専門工事業者を見つけられなかった責任を住民に転嫁し、見切り発車することは看過できません。

それは、馬淵建設の Mzec に掲げる「誠実」とは、かけ離れた対応になります。

●専門工事業者の会社の方針を無視するのなら、その元請けは、今後、下請けからも信頼されないこと

創勝さんの会社の方針は、「作業前には、近隣住民へのご挨拶や工事の詳細説明を丁寧に行い、不安を解消し納得いただけるまで対応致します。」です。説明会の際も、近隣住民全員で、会社の方針を確認させていただきました。

アスベスト除去工事に、専門ではない元請け馬淵建設が、下請け専門工事業者の方針を踏みにじることは、あり得ないことです。

創勝さんと十分な打ち合わせを行い、質問の回答をして下さい。

●アスベスト除去作業に係る看板の設置個所（今の場所では、誰も気付かない）

説明会において、住民から記載内容の誤りを指摘され、修正をするとして「アスベスト除去作業のお知らせ」看板について、その設置個所は、現在の奥まった箇所ではなく、周辺住民誰しものが、瞬時に見ることが可能な表側とされたい。

注)本書簡は、個人情報保護をうえて、「青空を渡さない会」のホームページに掲載します。